

1. 絶対王政

1.1 背景

◇封建制度の解体

中世末期、商業が発展してくると、地方農業家たちは経済活動がないために没落していった。そこで王が農業貴族家を官僚として雇い、土地を王に献上するかわりに貴族に給料を与えた。

◇商業の発達

商業が発達してくると王は商業家に税を納めるかわりに自由に商売できるようになった。こうして王を商業家や農業家が王を歓迎し、王は巨大な力をもっていくことになった。

1.2 絶対王政の政策

国王は常備軍と官僚制を整備し、中央集権化を進めた。

◇常備軍

封建貴族が没落したため、それに代わる国防・治安維持を担う国王の直轄群。

◇官僚制

国王の実質的な支配領域が拡大したため、それを管理する機構が必要となり、国全体を管理する組織として誕生した。

◇重商主義

常備軍や官僚制を維持するためには莫大な貨幣を必要とした。当初は金や銀を直接入手しようとした(重金主義)が、やがて貿易の拡大による輸出入の差額を貨幣によって蓄積する貿易差額主義をとるようになった。それにともない、国内産業の保護、育成もさかんに薦められ(産業保護主義)、これらの政策をまとめて重商主義政策とよんでいる。

1.3 スペインの絶対王政

◇スペイン王国の誕生

8世紀以降イベリア半島ではイスラム勢力が支配していたが、そのイスラム勢力からイベリア半島を奪い返そうとする運動(レコンキスタ)が起こっていた。その過程において1479年にスペイン王国が建国され、カルロス1世が即位、1492年にレコンキスタが終了した。

◇ハプスブルク家のスペイン継承

神聖ローマ皇帝を兼ねたオーストリアの王家ハプスブルク家※1は16世紀初めに結婚によってスペインの王位を継承し、カルロス1世(神聖ローマ皇帝カール5世)の時代には、オーストリア、ネーデルランド(オランダ)、イタリアなどの広大な領土を占有した。

◇スペイン絶対王政最盛期

1556年、カルロス1世の息子であるフェリペ2世が即位し、南米からの銀の流入(近代ヨーロッパの開始 p.4 参照)でスペイン絶対王政は最盛期を迎える。1571年、オスマン帝国をレパントの戦いで破り、地中海の制海権を掌握し、1580年にはアジア貿易を独占していたポルトガル王位をも継承して、太陽の沈まぬ国といわしめた。

◇スペインの衰退とオランダの独立

フェリペ 2 世は熱心なカトリック教徒であったためカトリックを押し付けることで国家の統一を形成しようとしていたが、カルヴァン派が多かった北部(オランダ等)を中心に、**オラニム公ウィレム**を首領とする反スペイン勢力が 1568 年～1609 年に、**ネーデルランド独立戦争**をおこして抵抗した。

<独立戦争の経過>

時代	内容
1579 年	北部 7 州が ユトレヒト同盟 を結んで戦い続ける。
1581 年	北部 7 州が ネーデルランド連邦共和国 (通称:オランダ)の独立を宣言した。
1602 年	オランダは海外進出を積極的に行い 東インド会社※2 を設立した。
1609 年	スペイン、オランダ共に休戦に入る。
1648 年	ウェストファリア条約 で正式に独立が承認された。

またスペインは 1588 年に**アルマダ(無敵艦隊)海戦**にてイギリスに敗戦。さらにこの時期南米からの銀の流入も減少したためスペインは衰退し、代わってイギリスが台頭する。

1.4 イギリスの絶対王政

◇テューダー朝の開始

1485 年、テューダー朝が開始され、テューダー朝のヘンリ 7 世は、ばら戦争(中世ヨーロッパ p.9 参照)の混乱を取捨、中央集権化を進めて絶対王政の形式に着手した。※3

◇絶対王政の確立

1509 年、**ヘンリ 8 世**が即位し、1534 年に**イギリス国教会**(近代ヨーロッパの開始 p.5~p.6 参照)を創設した。次の**メアリ 1 世**の時代にはカトリックへの復帰を目指してイギリス国教会を弾圧するなどして混乱した。

◇絶対王政最盛期

メアリ 1 世の死後即位した**エリザベス 1 世**は、1559 年の**統一令**によってイギリス国教会を確立した。※4 また、1588 年にスペインと争って制海権を奪い(**アルマダ海戦**)、1600 年には**東インド会社**を設立し、アジア進出の道を開いた。さらに 1607 年には北アメリカ東岸に**ヴァージニア植民地**を建設した。しかし、イギリスは官僚制や常備軍が十分ではなかった。

◇スチュワート朝の開始

1603 年にエリザベス女王が死去し、テューダー朝が断絶した。親戚のスコットランド王ジェームズ 6 世がイングランドジェームズ 1 世として即位し、**スチュワート朝**が開始される。

◇イギリスにおける農業産業

イギリスでは元来羊の飼育が行われ、羊毛を輸出していた。ヘンリ 8 世の頃には毛織物の輸出国に成長した。また 16 世紀には**囲い込み運動(エンクロージャー)**が行われた。エンクロージャーとは毛織物工業が発展したため、その原料である羊毛生産増大のため、**領主(地主)**が農地を農民から取り上げて囲い込み、羊牧場にしたことをいう。

1.5 フランスの絶対王政

◇ユグノー戦争とヴァロワ朝の断絶

宗教改革の発展の中で、カルヴァン派(ユグノー)が広まったフランスでは、宗教対立が宮廷内部の貴族の対立と結びつき 1562～1598 年に、ユグノー戦争※5 とよばれる内乱が生じた。この間、サン・バルテルミの虐殺にて 3000～4000 人のユグノーがカトリックに殺された。この混乱の中 アンリ 3 世 も殺され ヴァロワ朝が断絶した。

◇ブルボン朝の開始

1589 年、アンリ 4 世 が即位し、ブルボン朝が開始した※6。1598 年、ナントの勅令を出して、ユグノーに信仰の自由を認め、またカトリックと同等の市民権を与え、宗教対立をおさめて王権を強化した。

◇ルイ 13 世

1610 年、ルイ 13 世 が即位し、その宰相 リシュリュー は、ユグノーを弾圧(国王はカトリックだから)など絶対王政の道を開いた。また 1614 年、三部会※7 招集を停止した。1635 年に 三十年戦争(p.3 三十年戦争後のドイツ参照) が勃発し、ハプスブルク家に対抗した。

◇絶対王政最盛期

1643 年、ルイ 14 世 が即位し、1648 年に フロイドの乱※8 が起こるが、宰相 マゼラン がこれを抑えて、王権を教固なものとした。マゼランの死後、ルイ 14 世は宰相を置かず 50 年以上にわたって、親政※9 を行った。この時期が絶対主義の絶頂期となる。1665 年には コルベール を財務長官に起用し、重商主義政策を推進した。ルイ 14 世は豊かな財政に恵まれて、ヴェルサイユ宮殿を建築し、文学や芸術を奨励した。また 1685 年には ナントの勅令の廃止 によって、新教徒を抑圧したため、ユグノーが多い商工業者はイギリスやプロイセンに亡命した。

◇スペイン王位継承戦争とフランスの下降

1700 年に ハプスブルク家最後のスペイン王カルロス 2 世が死去 し、ルイ 14 世の孫フィリップ(フェリペ 5 世)が王位を継ぐと、翌年にはイギリス、オランダ、オーストリアとの間に スペイン継承戦争 が起こった。この戦争は 1713 年に ユトレヒト条約 (英国はジブラルタル、ミノルカ島を獲得)によって終結するが、フランスはスペイン併合に失敗し、ルイ 15 世以降は絶対王政は下降していった。

1.6 三十年戦争後のドイツ

◇アウグスブルクの宗教和議以降のドイツ

アウグスブルクの宗教和議(近代ヨーロッパの始まり p.5)以降、新旧両派の対立が解決せず、諸侯は両派に別れて抗争を続けていた。

◇三十年戦争

ボヘミア(ベーメン<現在のチェコ>)で住民にカトリックを強制したことから、プロテスタントの民衆が蜂起しこれがきっかけで 1618 年に 三十年戦争 が始まる。新教国にデンマーク、スウェーデン、フランス※10、旧教国にスペインがつき、この結果ドイツ全土は荒廃

した。

◇ウェストファリア条約

三十年戦争は 1648 年のウェストファリア条約で收拾された。ウェストファリア条約の内容は、

①アウクスブルクの宗教和議を確認し、ルター派に加え、カルヴァン派も承認。

②オランダ、スイスの独立が国際的に承認

③フランスはハプスブルク家からアルザス、ロレーヌ地方を獲得。

④神聖ローマ帝国の領邦諸侯は、対内的・対外的主権を認められる。

の 4 つである。神聖ローマ帝国は事実上解体し、ハプスブルク家は家領であるオーストリア程度しか支配できなくなった。

◇プロイセンの台頭

ドイツ東北部に位置していたプロイセンが台頭し、1713 年にフリードリヒが即位し絶対王政を確立した。1740 年にはフリードリヒ 2 世が即位し、啓蒙専制君主として力を注ぎ、オーストリアとの 2 度の戦争により、オーストリア領を奪い、プロイセンの領土を拡大した。

◇オーストリア

1740 年にマリア=テレジアがハプスブルク家の家領を継承するが、女性の相続は認めないとプロイセンが抗議し、オーストリア継承戦争(1740~48 年)でシュレジエンが奪われるが、その後七年戦争(56~63)が起こり、結果マリア=テレジアの家領相続は認められた。

※1 政略結婚の繰り返しで強力な権力となった

※2 世界初の株式会社。経営学第 1 回レジュメ p.4 参照。

※3 地主であるジェントリを官僚に登用するなどして封建貴族を抑え、絶対王政の確立に向かった。ジェントリとは貴族より下で、独立自営農民(ヨーマン)よりも上の社会階層。

※4 教皇からの政治的独立を確立するとともに、毛織物産業を保護して税政の基礎を固めた。この頃から国教会はプロテスタント(カルヴァン派)が基本となるがカトリック的な側面も残った。

※5 ユグノーとカトリックの対立

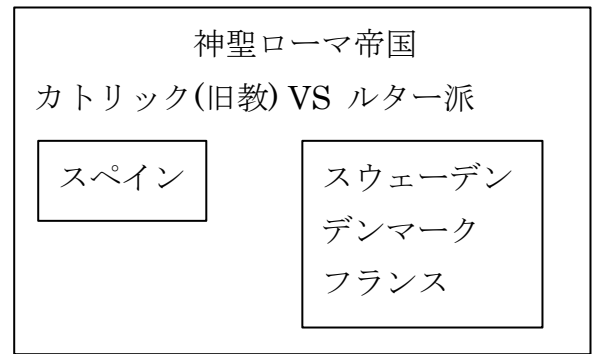
※6 アンリ 4 世は元々ユグノーの指導的立場であったが国内統一のため国内の大部分が信仰していたカトリックに改宗した。

※7 フランス国内の 3 つの身分(聖職者、貴族、第三身分)の代表者が重要議題を論議する身分制議会のこと。

※8 王権の伸長に反対する貴族の反乱。

※9 君主自身が政治を行う。またその政治形態のこと。

※10 フランスは旧教国なのに、ハプスブルク家の勢力削減のため新教国について参戦した。(リシュリュー)の策略。



三十年戦争

2. 市民革命

2.1 イギリス市民革命

◇スチュワート朝の開始

エリザベス 1 世が死去すると、テューダー朝が断絶したためスチュワート朝のジェームズ 1 世が 1603 年に即位した。(p.2)

◇ジェームズ 1 世(位 1603～1625 年)の政策

ジェームズ 1 世は、王権神授説の信奉者で議会を無視して課税などで商業業者や農民の負担を増大し、またピューリタンを弾圧した。

◇チャールズ 1 世(位 1625～1649 年)の政策

ジェームズ 1 世の子チャールズ 1 世も専制政治を行い、議会と対立した。1628 年に議会では、権利の請願※1を可決した。しかしチャールズ 1 世はいったんこれを承認したが翌年に議会を解散し、以後 11 年間にわたって議会を承認せず、専制政治を行った。そして、1639 年スコットランドに国教会を強制しようとして反乱を招くと(スコットランド反乱)これをきっかけに 1642 年、王党派と議会派の武力衝突が発生した。

◇ピューリタン(清教徒)革命(1642～1649 年)

王党派と議会派の衝突は、当初王党派が優勢であったが、結局はクロムウェルの指揮する議会派が勝利をおさめた。この間、議会派内部でも、立憲君主制を志向する長老派と、共和制を求める独立派の対立があったが、軍隊の実権を握る独立派はクロムウェルを首領として長老派を議会から追放し、さらに 1649 年、王を処刑して共和制を樹立した。これがピューリタン(清教徒)革命である。

◇共和制のイギリス

1651 年、イギリス貿易から外国船を排除するために航海条例※2を出し、1652 年に第一次英蘭戦争が勃発した。これに勝利したクロムウェルは 1653 年、護国卿(ごこくきょう)※ 3 に就任し厳しい独裁政治を行った。彼の死後、勢力を回復した王党派と長老派は、チャールズ 1 世の子チャールズ 2 世を擁護し、王政に戻した(王政復古)。

◇チャールズ 2 世(位 1660～1685 年)の政策

チャールズ 2 世も専制政治を行い、さらにカトリックを復活させようとしたために議会と対立した。

◇ジェームズ 2 世(位 1685～1688 年)の政策

チャールズ 2 世後のジェームズ 2 世はカトリックを指示して専制を続行したため、ついに議会は 1688 年、ジェームズ 2 世を廃し、王の長女で新教徒のメアリとその夫オランダ総督ウィリアム(ウィレム)を新王とした。

※1 議会の同意なき課税や法令に基づかない逮捕の禁止を国王に認めさせるもの。

※2 オランダ商船はイギリスから締め出され、中継貿易が主体だったオランダは大打撃を受けた。

※3 イングランドにおいて王権に匹敵する最高統治権を与えられた官職。

◇名誉革命(1688 年)

ジェームズ 2 世は対抗するために派遣した軍隊が新王側についたのを知ると、抵抗を断念してフランスに亡命、無血革命が成立した。これを**名誉革命**という。

◇イギリス議会政治の確立

名誉革命の翌年 1689 年、ウィリアムは**ウィリアム 3 世**として、妻の**メアリ 2 世**と共に議会の決定した権利の宣言を承認して王位につき、王の名のもとに**権利の章典**として発布した。イギリス絶対王政は消滅し、議会政治の基礎が確立した。※1

◇ハノーヴァー朝開始

1714 年、ジョージ 1 世が即位しハノーヴァー朝が開始される。この時期にちょうど首相だったホイッグ党ウォルポールの下で内閣が議会に責任を負う責任内閣制が確立した。

※2

2.2 アメリカ独立戦争

◇アメリカの植民地化

世界史第 2 回レジュメ p.23<新大陸(南米・北米への進出参照)>~参照

◇

※1 チャールズ 2 世の頃から、トーリー党とホイッグ党の二つの党派が確立した。

トーリー党…王権に寛容(王党派)→後の保守党

ホイッグ党…王権に批判的(議会派)→後の自由党

※2 王は君臨すれど統治せずという立憲君主制の原則が固まった。

3.